

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																			
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	昭和57年10月1日	篠田 真千	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713																																		
設置者名	設立認可年月日	設立認可年月日	代表者名	所在地																																		
学校法人Adachi学園	昭和42年1月12日	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																	
商業実務	観光専門課程	葬祭ディレクター学科		平成25年文部科学省 認定	-																																	
学科の目的	人の気持ちの分かる葬祭ディレクターの育成。葬祭ディレクター学科は、企業と協力し専門分野の知識・技術及び基本的な人間力の向上を授業と実習を通して、葬祭業界に必要な能力をもった人材を育成し、関係業界及び社会に貢献する人間の育成を目的とする。																																					
認定年月日	平成28年2月29日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																															
2年	昼間	1792	1408	0	1024	0	0																															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
40人	38人	1人	1人	4人	5人																																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件	卒業単位の取得が条件 出席率70%以上、定期テストの実施																																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、専門カウンセラーによる面談実施		課外活動	■課外活動の種類 国内旅程管理研修、海外旅程管理研修 ■サークル活動: 有																																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 旅行・バス業界 ■就職指導内容 ①担任との面談実施、就職担任との面談実施、面接練習 ②学内企業セミナー実施 <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		■卒業生数	17	人	■就職希望者数	17	人	■就職者数	17	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	100	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>厚生労働省認定葬祭ディレクター技能審査2級</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>級</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	厚生労働省認定葬祭ディレクター技能審査2級	③	17	16	級	③	17	10	級	③	2	1
■卒業生数	17	人																																				
■就職希望者数	17	人																																				
■就職者数	17	人																																				
■就職率	100	%																																				
■卒業者に占める就職者の割合	100	%																																				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																			
厚生労働省認定葬祭ディレクター技能審査2級	③	17	16																																			
級	③	17	10																																			
級	③	2	1																																			
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 令和3年4月1日時点において、在学者33名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者31名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学習意欲の喪失、健康上の理由など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など		■中退率	6.1%																																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																					
当該学科の ホームページ URL	https://www.tit.ac.jp/department/funeral/																																					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

葬儀業界は、年々サービス業の側面が強くなってきている現状を踏まえ、知識、技術の向上とともに、接客スキルやサービスマインドの向上を株式会社ピンク等と連携し、その理論と実践を学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、採用の是非を検討するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
松本昭典	株式会社ピンク	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
高橋 慎司	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月20日 10:00～12:30

第2回 令和4年3月25日 14:00～16:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、コミュニケーション能力の重要性や社会人としての意識を高める授業の必要性を指摘された。それを受け令和3年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②業界の知識や理解を深めるため「葬儀概論」を企業からの講師に変更する。
- ③授業で得たスキルで業界に向け新しい提案をするため「卒業制作」授業の改善を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

葬祭ディレクター学科の教育理念「人の気持ちの分かる葬祭ディレクターの育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を実施することにより、実践的かつ専門的能力をもった人材を育成すること。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社ピンクとの連携により「接客・設営実習授業」において、業界が求める実践的な技術、知識の向上を図る。同企業より学期末において学習成果の評価をしている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
サービス接遇知識 (接遇・設営実習)	祭壇・設備・備品の名称を理解し実際の設営やお各様との打合せのポイントを学ぶ。ご家族にとって葬儀を行うまでのお別れへの心の準備をする大切な時間になることを理解する	株式会社ピンク

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

① 専門分野における実務に関する研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

② 指導力の修得・向上のための研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。
 上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「葬儀業界の現状と動向」(連携企業等:株式会社ピンク)
 期間:令和3年7月20日(木) 対象:葬祭ディレクター学科全職員
 内容:
 【目的】①葬祭業界が社員に求める最新の知識や技術を理解する。
 【内容】①業界が求める、ビジネスマナー、一般常識について。
 ②人的サービスの必要性
 ③効果的な考え方。

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「女らしく、男らしくよりも自分らしく生きる」
 「～すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ～」(連携企業等:日本LGBT協会)
 期間:令和4年3月2日(水) 対象:全職員
 内容:
 【目的】①LGBTQとは何か、当事者の多様性を理解すべき領域はどこまでかを学ぶことで、漏れのない学生対応が可能になる。
 ②LGBTQの当事者である学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる。
 ③教育現場に特有の注意点や必要な環境整備を理解することで、当事者の心理的安全性を担保できるようになる。
 【内容】①LGBTQとは何かという基礎的な理解をする。
 ②LGBTQ当事者の生き方やこころの持ち様を深く理解する。
 ③学生に向き合う教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「葬祭業界の最新状況と人財育成」(連携企業等:株式会社ビंक)
期間:令和4年9月16日(金) 対象:葬祭ディレクター学科全職員
内容:【目的】①コロナ禍による葬祭業界の変化後の社員に求める最新の知識・技術に適応した人財育成

【内容】①コロナ禍の影響による業界が求める人財とビジネスマナー、一般常識について。
②人的サービスの必要性
③効果的な考え方。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ITリテラシー・情報セキュリティ研修」
「ITリテラシー・情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成」(連携企業等:合同会社アクセルフォーム)
期間:令和4年6月16日(木) 対象:全職員
内容:
【目的】ITリテラシーを向上させ、ICT教育の基盤づくりを進める。情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成
【内容】①ITリテラシーとは何かという基礎的な理解をする。
②セキュリティ関連法規を理解する。
③教育現場(インターンシップを含む)におけるインターネットの利便性と危険性の理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できていないか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動において、LGBTQをはじめとした多様性の理解が求められた。職員研修によって、教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶなど、多様性の理解度向上に取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコル協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
関口恭一	株式会社CALMO	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

公表時期: 令和4年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2) 各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3) 教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6) 学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7) 学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8) 学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9) 学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11) その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(観光専門課程 葬祭ディレクター学科 祭ディレクターコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ビジネスマナー	社会人として必要なマナーを身につける	1前 2後	64	4	○			○			○	
2	○		就職対策	自分のキャリア像を明確にし実現へ向けて必要となる準備をし始める意識づけ	1後 2前	64	4	○			○		○		
3	○		ユニバーサルホスピタリティー（コミュニケーションスキ	生きていくうえで重要な「人間関係」「考えて行動する」「調整する能力を養う」などの能力を身につける	1前 後	64	4	○			○			○	
4	○		ユニバーサルホスピタリティー（社会福祉論）	基本的な福祉・介護について学び、人間の尊厳と家族の関係性について理解する	2前	32	2			○	○			○	
5	○		フューネラルセレモニー論（宗教学）	世界の宗教・日本の宗教を理解し、各宗教の葬儀における儀礼を学ぶ	1前 後	64	4	○			○			○	
6	○		フューネラルセレモニー論（冠婚葬祭基礎知識）	冠婚葬祭の意味、儀礼を学び知識を深める	2前 後	64	4	○			○			○	
7	○		フューネラルビジネス論（葬儀概論）	葬儀の基礎知識、葬祭業で働くためのホスピタリティーマインドの習得	1前 後 2前	128	8	○			○			○	
8	○		フューネラル・フローリストⅠⅡ（フラワー実習）	花と資材の扱い方・花束・アレンジの基礎 花の流通、花の観察、学習、水揚げ方法、管理方法、原価率を学ぶ	1前 後	256	16			○	○	△		○	
9	○		フューネラルフローリストⅢ（セレモニーフラワー実習）	花が生み出す印象や効果を理解し、一つの花祭壇を作り出すための技術力の土台を養う	2前 後	128	8			○	○			○	
10	○		空間デザイン（空間コーディネート）	さまざまなものを使い、装飾や演出を学び実践を通して自ら完成させる	1前	64	4	○			○			○	
11	○		儀礼デザイン（空間デザイン）	デッサンとデザインの基礎を学び、ビジュアル表現によって提案できる力をつける	1前 後 2前	128	8	○			○			○	
12	○		サービス接遇知識（接遇・設営実習）	器材の名称やお客様との打合せの方法や設営のポイントなどを学ぶ	1後	32	2			○	○			○ ○	

28			○ 手話	日常で使える手話を学び、検定取得を目指す	前後 2前	128	8	○			○			○
29			○ 研修旅行	国内・海外の文化歴史を体験する	1 後 2 後	64	4			○		○	○	
合計					29科目	2432単位時間(152単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。		1学年の学期区分	2期
その内必修・選択必修科目は96単位以上取得しなければならない			
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。